

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	株式会社オー・エフ・ネットワークス
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンド基盤の未整備エリアを早期に基盤整備することに賛成の立場で、その在り方につきまして以下意見を述べさせていただきます。</p> <p>これまでの経過を踏まえると、民間主導で整備を進めることが望ましいことにつきまして、賛成いたします。</p> <p>また、整備には多大なコストがかかることから、少なくとも短期的には採算ベースでの整備が困難であると予想されていることから、基盤整備加速化インセンティブとして、公的支援が望ましい点にも賛成いたします。</p> <p>その上で、公的支援の方法論につきまして、いくつか意見を述べさせていただきます。</p> <p><民間事業者に対するインセンティブ></p> <p>民間事業者が不採算地域に設備投資するに当たっては、公的支援の方法論が難しいことが想定されます。他の方法として、税制上の優遇措置を加えることにより民間事業者にインセンティブを付与することも有効であると考えます。</p> <p><公設民営手法におけるインセンティブ></p> <p>既に実施されている「公設民営」の手法を用いて整備を推進するに当たっては、基盤整備の初期費用だけでなく、必要に応じて保守・維持の経費についても国が適切な支援策を講ずることで、整備後の運用の安定化を図ることが出来、また整備計画の段階から現実的な運用計画が立案出来ることで、計画立案の促進に繋がるものと考えます。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点に</p>	<p>超高速ブロードバンドの利用率向上は、ICT 利活用推進の要と捉え、その促進策を講じていくことに賛成します。</p> <p>平成22年版情報通信白書が述べているように、利用率向上に向けた課題として、インターネットの割高感、リテラシー面の不安感があります。</p> <p>割高感の対策としては、事業者間の公正競争による低廉な料金の実現に加えて、政策的誘導措置として国民にサービス加入等へのインセンティブを与えることも有効であると考えます。(例:</p>

<p>ついてどのように考えるか。</p>	<p>エコポイント類似の制度創設等) リテラシー面の不安感は、特に年齢が高いほど強くなる傾向があると言われているため、子供・高齢者・チャレンジ等へのデジタルリテラシー教育に加えて、高齢者層に対する利用サポートサービスを行う公的機関を設立する等の方策も有効であると考えます。</p>
----------------------	--